

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立兵庫小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 本年度の重点目標について、保護者アンケート及び職員アンケートでは、概ね達成できたとの成果が表れていた。 いじめ等の問題行動や不登校児童支援への対応については、管理職、学級及び学年等関係職員で早期対応を行った。問題行動及び不登校児童支援に対して、組織で対応し、未然防止、早期発見、早期対応を図ることができた。 タブレット端末や電子黒板などのICTの活用を含めた教育活動をICT推進リーダーや各主任等を中心に推進することができた。家庭学習が習慣化するように保護者と連携した取り組みを今後も行っていく。 3つの部会を中心として、職員の創意・工夫を生かした取り組みの充実を図るとともに、職員研修の充実に努めていく。
------------------	--

2 学校教育目標	<p>あいさつ 笑顔 思いやり 心をそろえて チーム兵庫</p> <p>-正しく かしく 美しく-</p>
----------	---

3 本年度の重点目標	<p>心の教育を推進する</p> <p>学力の向上をめざす</p> <p>落ち着いた学校を作る</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1) 共通評価項目				5 最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践	○学力向上対策評価シートに示した共通理解を基に共通実践した教師を98%以上にする。	・研究テーマに向けて計画的に校内研を実践すると共に、学力向上に関する研修を学期に1回以上開催し、学力向上への取組を促進する。	B	・計画的に校内研究を実施し、学期に1回以上学力向上に関する研修を行った。 ・学力向上対策評価シートに示した共通理解を基に共通実践した教師93%。	B	・取り組まれている学力向上の手立てを引き続きしっかりやってほしい。	学力向上CO
	○児童の学習意欲の向上	○学習について肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・「学習計画表」「三段階の課題」「ICTを活用した個別最適な学び」「ふりかえり」を行う。	A	・「難しい問題でもがんばればできると思う」と回答した児童91%。	A	・児童が自信をもっていることがうかがえる。 ・タブレットを使って楽しみながら学習ができているのではないかと。 ・ペーパーテストだけでなく非認知能力も必要な。	学習部
●心の教育	●児童が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童アンケートにおいて肯定的な回答をした児童を90%以上にする。 ・「ほかほか言葉」を使う ・「笑顔であいさつができる」など	・人権教室又は人権教育週間を学期に1回開催する。兵庫小児童をよりよく育てるためのアンケートを実施する。 ・ふれあい道徳教育として、参観日に道徳の授業を公開し、家庭と連携して取り組む。	A	・人権教室や人権教育週間を毎学期開催することができた。 ・ほかほか言葉を使っている児童94%、笑顔であいさつをしている児童89%。	A	・挨拶を立ち止まってする児童が多い。 ・青少年健全育成標語であいさつや、心の言葉がたくさん表れていた。	ふれあい部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていて回答をした教師を90%以上にする。	・毎月児童及び保護者へのアンケートを実施する。 ・始業式の日「レインボー作戦」の指導を全校で行い、その後各学級で指導を行う。 ・教育相談月間を設け、子どもの心の様子を把握し、学年、職員間で共有する。	A	・いじめアンケートを毎月行うことで小さなトラブルでも早期発見・早期対応することができた。 ・いじめ等問題行動が起きたとき組織的対応ができていて回答をした教師97%。	A	・いじめ問題は早期発見が大切。 ・保護者や児童へのアンケートも毎月実施していただいたい。	ふれあい部
	●◎児童が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上	・校内研修等を年間10回以上実施する。 ・各種体験活動では、児童に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。 ・授業だけでなく、教育活動全体で生徒指導の機能を生かした取り組みを実践する。	A	・校内研修等を10回以上実施し、教師の資質能力が向上した。 ・教師が、児童の振り返りをもとに、個々に評価を行い、認めることで、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は91%と高い割合となった。 ・道徳や総合の授業をはじめ、朝の放送、行事等で夢や目標をもつことの大切さを繰り返し、指導したことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した児童は87%と高い割合となった。	A	・児童へのアンケートで、高い数値が出ていたへんよ。 ・夢や希望をもって生活してほしい。	活動部
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・「給食便り」で食育に関する内容を提供する。 ・年2回の「早寝・早起き・朝ご飯実践カード」を実施し、朝食の必要性を喚起する。	A	・給食だよりを発行したり、早寝・早起き・朝ご飯実践カードを実施し啓発することができた。 ・健康に良い食事をしている」児童95%。	A	・食育の授業をきちんとされている。	活動部
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●「交通ルールを意識して安全に行動できた」のアンケートで肯定的な回答をした児童を90%以上にす	・交通安全教室を実施し安全に対する意識付けを行う。学級活動などで交通安全に関する話や授業を行う。	A	・「交通ルールを意識して安全に行動できた」のアンケートで肯定的な回答をした児童97%。	A	・交通安全教室や日々の意識向上への取り組みを継続してほしい。	ふれあい部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在在等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在在等時間上限を遵守する。 ●職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・時間外在在等時間を減らすために、毎週金曜日に定時退勤推奨日設定する。金曜日の70%は18:00までに施設をする。 ・90%以上の職員が14日以上年次取得を行う。	C	・金曜日に18:00までに施設できたのは34%。 ・年次休暇を14日以上取得した職員19人(51%)	C	・18時でも遅い。業務改善への取り組みを頑張ってもらいたい。	教頭
	○業務改善と教職員の働き方改革	○1か月の時間外勤務時間平均を30時間以下にする。	・各学年部会や3部会で業務を分担し、組織的に業務を遂行する。 ・毎月の時間外勤務時間平均を開示し呼びかけを行うことでセルフケアの意識を高める。	A	・4月～12月の時間外勤務時間平均は、28時間33分であり30時間以下であった。 ・労働安全衛生委員会を毎月実施し職員の働き方に関する話し合いを実施した。	A	・個人での差はあるかと思うが、全体での平均時間は目標達成できている。	教頭
●特別支援教育の充実	○特別支援教育の充実	○板書やノートの取り方、学習の流れの統一、教室の前面に不必要な掲示物を掲示しない、ワークシートや掲示物はUDフォントを利用するなどユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備をした教師を100%にする。	・職員の特別支援教育に関する理解を深めるために、特別支援教育の視点を生かした支援についての校内研修を行う。 ・「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」の記入についての研修を行い、児童の実態に合わせた支援方法を検討し、支援に生かす。	B	・特別支援教育の理解を深めるための校内研修を実施した。 ・「個別的教育支援計画」や「個別の指導計画」を記入し、児童の実態に合わせた支援を行った。 ・ユニバーサルデザインを意識した学習環境の整備をした教師97%。	B	・学級の環境整備等の配慮がされている。	特別支援教育CO

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				5 最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	最終評価		学校関係者評価		
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○落ち着いた学校を作る	○あいさつ、返事、善い行いを進んで実行する。	○靴箱の靴やトイレのスリッパの整頓を80%以上の児童ができるようにする。	・立腰の定着、靴箱の整頓、学習用具の整理など、基本的な生活習慣に関することについて、心を整えて自発的に取り組むことができるようにする。	A	・始業式や立腰の時間を活用して靴のかかとを揃える指導を行った。 ・靴箱の靴やトイレのスリッパの整頓をしている児童92%。	A	・よくできている。 ・児童が挨拶を進んでいる。 ・児童の元気が良い。	ふれあい部
○ICTスキル、情報モラル	○兵庫小ICTスキル、情報モラル指導計画に基づいて指導し、活用を行わせる。	○1日に1回以上端末を使う学級を90%以上にする。	・ICTスキル・情報モラル指導計画に沿って、端末を積極的に活用する。	B	・1日に1回以上端末を使う学級75%。	B	・楽しみながら学んでほしい。ツールの一つとしてタブレットパソコンをどんどん活用してほしい。	ICT推進リーダー

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育	
5 総合評価・次年度への展望	<p>保護者アンケート及び職員アンケート、児童アンケートでは、今年度の重点目標について概ね達成できたとの成果が表れていた。</p> <p>・【心の教育の推進】温かい人間関係の育成に努め計画的に心の教育を推進することで、思いやりや規範意識を高めることができた。</p> <p>・【学力の向上】グループ学年や全校授業研究会を実施し、分ける授業で子どもの意欲を伸ばし、友達と学び合うことの楽しさを感じ取るようにした。</p> <p>・【落ち着いた学校を作る】立腰の定着、靴箱の整頓、学習用具の整理など心を整えて自発的に取り組むことができるようになった。</p> <p>次年度は、今年度良かったところはさらに伸ばし、不十分なところは少しでも改善できるようにしていく。</p>